

導入事例
てれたっち使いやすいからこそ活用が進む「てれたっち」
多忙な先生方の業務改善にも効果大

いなべ市立治田小学校は、三重県いなべ市における「てれたっち」の導入校の1つです。同校では、先生方の積極的な取り組みの結果、授業はもちろん、事前準備などでも大きな効果が見られているとのこと。治田小学校の太田さなえ先生、山下将紀先生、いなべ市教育委員会・学校教育課の水谷妙指導主事にお話を伺いました。
※先生のご紹介、学校での設置状況などは取材当時のものです。

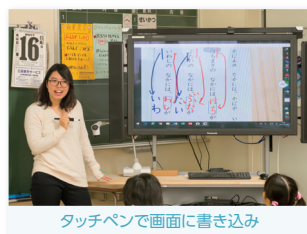


導入商品

外付け型タッチ化ユニット
「てれたっち」

DA-TOUCH / WB

※ディスプレイは別売りです。



タッチペンで画面に書き込み

■従来の黒板と電子黒板のいいとこ取り

「てれたっち」をどのように活用されているのか教えてください。

山下先生: 書画カメラと接続して教科書や資料を拡大したり、パソコンとつないでパワーポイントの自作資料を見せたりすることが多いです。アナログと併用し、「いいとこ取り」ができるような使い方を常に考えています。たとえば、めあてや課題、まとめといった、児童がノートに書き写すものは従来通りの黒板を使い、映像や資料は「てれたっち」を使います。常に表示させておきたいものは黒板に、テンポよく見せたい資料などは「てれたっち」という使い分けですね。

太田先生: 特に低学年の児童には動画が効果的です。書き順、作業手順などは動画で見せるとすんなり頭に入るようですし、その上にタッチペンで見るべきポイントをしっかり指し示すことができますから、非常によい効果が出ています。静止画と言葉だけではこうはいきません。また、インターネット検索も活用しています。予想外の質問があっても、児童の興味に合わせてどんどん話題を広げていきます。「てれたっち」はパソコンと同じ操作性なので、機能も限定的でなく、いろいろなことができますね。

■45分の授業時間を有効活用。資料作成の時間も大幅に軽減

「てれたっち」の導入で授業はどう変わりましたか。時間効率がよくなったそうですが。

太田先生: 低学年の授業は特にテンポが大切です。私は45分の授業の流れの中で、どこで効果的に「てれたっち」を使って注目を集めるか、いつも意識するようになりました。また、「てれたっち」はスイッチを入れてすぐに使い始められる点がいいですね。既存の電子黒板は起動に1～2分かかることもありましたが。たった1～2分とはいえ、授業の時間が1コマ45分しかない中で、これは大きな数字です。

太田先生: 以前は1時間の授業のために数時間の準備が必要になることもありましたが。黒板に掲示する資料を作成するためには、教科書や資料集の用意、スキャン、編集といった作業が必要でした。大きいサイズの資料ならA3で4枚を印刷し、テープで貼り合わせますが、授業の合間や放課後の時間でやりくりするのが大変でしたね。しかし、「てれたっち」と書画カメラがあれば、授業中に実物をそのまま写して見せられるので、こうした準備時間はほぼゼロに近くなりました。しかも、児童の様子を見ながら臨機応変に見せるものを変えていけます。



映像や資料は「てれたっち」に表示

■使い方はいろいろ。アイデア次第で活用が広がる

今後の活用については、どのようにお考えですか。

太田先生: 家庭や図工のような、実際に手を動かすことの多い授業と「てれたっち」は非常に相性がいいですね。今後は音楽でも使えないかと考えています。インターネットをうまく活用すれば、私たち教師の見たことないもので、児童と一緒に調べることができると期待しています。

山下先生: 私は自作の問題作りにチャレンジしたいですね。「てれたっち」はパソコンと同様の使い勝手なので安心です。使い慣れたソフトウェアで作れますよね。

水谷指導主事: 治田小学校では、先生方がどういう場面で「てれたっち」を使うのか、しっかりと考えを持って取り組まれています。児童のために何がよいことなのかを真剣に模索されていて、これぞ本来あるべき教育の姿だと感じました。導入に関してですが、新しい機器の操作習熟というのは、多忙な教育現場の先生方に負担がかかるものでもありますが、全職員対象に講習会を開催していただき、設定もおまかせできましたので、アイ・オー・データ機器のサポートでスムーズに運用を軌道に乗せることができたと思います。

取材にご協力いただいた先生

いなべ市教育委員会
学校教育課
水谷 妙 指導主事いなべ市立治田小学校
太田 さなえ 先生いなべ市立治田小学校
山下 将紀 先生

CLIENT DATA

導入学校 / いなべ市立治田小学校
所在地 / 三重県いなべ市
設立 / 1876年